

新たな評価手法を実践

平成24年度行政評価「外部評価」



市民の視点で事業を評価し、より良い登米市を目指します

市が取り組んでいる事業について、市民の視点で評価する行政評価の外部評価が8月9、22、29の3日間、市役所迫庁舎などを会場に開催されました。

外部評価は、行政と市民や民間の役割分担、費用対効果などについて、市民の視点による評価を実施し、行政評価の客観性と透明性を高めることが目的です。

今年度は、従来の個別事業に対する評価のほかに、関連する複数の個別事業をまとめた基本事業の評価を加え、市行政評価委員会委員7人により、各個別事業の関わり方や事業ごとの重要度について総合的な評価が行われました。

評価結果は、市のホームページで公開しています。

絵本で感性を育む

第13回市絵本原画展

今年で13回目を迎える「市絵本原画展」が9月6日から9日の4日間、登米祝祭劇場を会場に開催されました。

今年度は、地元伊豆沼を題材にした石倉欣二さんの絵本「のんちゃん」と白鳥の原画19枚を展示。会場には、伊豆沼・内沼フォトコンテストで入選した11点の作品や県図書



たくさんの絵本の中からお気に入りの絵本を見つけて、仲良く読む子どもたち

登米の食材を堪能

消費者が産地見学ツアー

市内外の消費者の皆さんに、登米市産食材についての理解を深めてもらうとともに、生産者との交流を図ろうと「登米市産食材産地見学ツアー」が9月1日、サンシャイン佐沼で開催されました。

見学ツアーには61人が参加。3つのコースに分かれて市内の生産現場を見学した後、昼

食を兼ねた交流会が行われました。市内産の食材を使ったさまざまなメニューに、参加者は「登米市の食材」を堪能していました。

登米市の秋の訪れを告げる風物詩として定着した、長沼レガッタが9月16日、県長沼ボート場で開催されました。



ゴールを目指して熱戦を繰り広げた長沼レガッタ

平成2年に同会場でインターハイが開催されたのを記念し毎年開催されているもので、今年で23回目となります。

競技のナックルフォアには、男子、女子、男女混合の種目に合計44クルー、カヌーには小学生男子、同女子、一般男子の種目に合計19クルーが出場、水上での熱戦を繰り広げました。

会場付近には、応援団のテントが並び、自チームの応援やパーベキューなど、選手とともにレガッタを楽しんでいました。

水上の戦い、熱く

第23回長沼レガッタ

鍛錬の成果を披露

市消防団演習を実施

平成24年度市消防団演習が9月2日、長沼フットピア公園で開催され、市内9支団の団員総勢約700人が日頃鍛えた消防操法技術や士気の高さを競い合いました。

演習は、9支団対抗により小隊訓練と小型ポンプ操法の2種目で競われました。夜間や早朝に訓練を重ねてきた団

員たちは、指揮者の号令で一斉に作業に取り掛かり、機敏な動きでホース延長や放水などの操作を繰り広げました。

審査は、士気、規律、敏しよさ、確実性、チームワーク、安全性などを基準に採点され、小隊訓練では迫支団が、小型ポンプ操法と総合では南方支団が優勝しました。

危険な状況で、消火と救助

市民5人に感謝状を贈呈



市消防長から感謝状が贈られた(左から)阿部幹男さん、大場美咲さん、大場沙也香さん、大場洋子さん、田口政信さん

8月3日に南方町後屋敷待井の県道で発生した交通事故による車両火災で、消火活動を行い事故車両から運転者を救出したとして、南方町後屋敷の会社員大場洋子さん、大場さんの長女で会社員沙也香さん、三女の登米高1年美咲さん、市議会議員長田口政信さん、会社員阿部幹男さんの5

人に市消防本部の菅原輝雄消防長から感謝状が贈呈されました。

菅原消防長は「大きな交通事故現場では、野次馬的になりがちですが、延焼拡大が予想される状況下で、自己の危険を顧みず、尊い人命を救出したその功績は他の模範となるものです。」と述べました。

30人の団員が前後左右に行進する小隊訓練